

令和3年度 第1回 介護・医療連携推進会議 議事録

事業所名：ウェルフォース定期巡回・随時対応型訪問介護看護ステーション

開催日時：令和3年9月24日（金） 17:00～17:40

開催場所：ル・ヴァンヴェール白鳥5階

参加者：連携診療所医師：1名 連携訪問看護事業所：1名 自事業所職員：2名

議題1 利用実績状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	3名	3名	4名	5名	5名	6名
平均介護度	3.7	3.7	3	3.4	3.4	3.3
問合せ数		1件			1件	

管理者の成田より、令和3年度の上半期の利用実績状況について報告があった。

利用者数の増加が少ないことの原因として、営業活動が足りないことが上げられる。

出席医師より、株式会社ウェルフォースが定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを実施していることの認知度が足りないのではないかと。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に訪問したり、お知らせのパンフレットなどを配布するなどをして、地域への認知度を高めていく事が大切である旨のアドバイスを頂く。

管理者の成田より、今後は、認知度を高めていくための営業活動を今後は強化していき、問合せ件数と利用者数を増やしていく旨の説明があった。

議題2 介護・医療の連携強化に向けた取り組み

管理者の成田より、現在サービスを提供しているご利用者のケースで医療的にアドバイス・指導を頂きたいとの話があった。

【ケース内容】

○年齢：81歳 ○性別：女性 ○介護度：要介護4

○住環境：二世帯住宅の1階に住まわっていて、長男夫婦と2人の孫と生活している。

ご利用者の概要：ご夫婦でアパートを経営されながら、民生委員もされていて、地域との交流も図られていた。その後、数度の入院を繰り返し、76歳に大腸がんを発症、現在に至る。

○病名：上行結腸癌

○経過と状況：上行結腸癌術後、脊髄浸潤のため下半身不随となる。

自宅へ帰りたいが排泄の臭いが家族への気兼ねと敵便による苦痛が強く人工肛門造設術を行った後ストマも良好との事で、疼痛コントロールを行いながら自宅で看取りとして戻る事となる。自宅療養開始から、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスをご利用して頂いている。

○支援経過

ご本人の希望でご家族の負担を軽くしたいとの考えから排泄を中心に1日3回の定期訪問を開始する。その後は体調に合わせて随時対応なども行いながら対応している。ストマパウチも良好で、排泄のトラブルもほぼなく過ごされている。訪問看護には、週2回の訪問入浴時と週1回の訪問看護時にパウチ交換の対応をして頂いている。

別居のひ孫の成長をラインで楽しまれながら生活を送られている。

○委員からの意見

医師より、現状は自分の状態を理解しているが、骨転移をしているので、痛みに対するケアが必要になってくる。その対応は服薬での管理となるので、痛みの訴えや状態変化があった場合は、その情報共有をしてほしい。また、吸引の必要性も多くなるので看護師との連携も準備確認を進めておいてほしい。

看護より、医師の指示で緩和ケアを実施していくため、痛みの状態を常に確認して頂き、小まめな情報の共有を図って頂きたい。

以上